聖隷国際教育学会
論文･実践報告等の書き方講座

論文や実践報告などを執筆するうえで、「読む人がどう感じるかを意識すること」が最も大切なポイントになります。以下、査読ありの論文を軸に進めますが、査読のない実践報告であっても基本は変わりありません。

以下、項目を分けていくつかポイントを列記します。

1. 論文は読者を納得させるもの･学びのあるものに

①論文は読み物である。
②論文は面白いものであるべき。
③読者を感心させることが必要。
④論文にはストーリーが必要。
⑤説明は論理的であること。
⑥文章は簡潔であること。
⑦論文の読者を想定すること。

2. 特に注意が必要な点

①既存の論文との文章の重複がほとんど無いこと。
②関連論文の内容は、適切に明示して引用すること。
③自分自身の論文であっても、過去の論文と重複が多いと新規論文と認められない。

3. 論文は読み物であること･読者がいることへの意識を持つ

論文は、自分のための記録ではないので、読者が存在するということを意識することが必要となる。研究費の申請やプレゼンテーションなど相手を意識する。原稿によっては、具体的な読者を想定して執筆する（例えば、採用になったばかりの若い先生・同じ関心やフィールドを持つ研究者など）。

①読んでみようと思わせる、新規性を感じさせる魅力的なタイトルを付ける。
②アブストラクト（論文要旨）で、論文の新規性と重要性を簡潔に表現する。大局的見地からのその論文の価値が分かるように書く。
③イントロダクション（論文本体の第 1 章）で、論文全体が分かったという気にさせる。研究の目的と方法、先行研究との関係、結果と展望などの筋道だった説明を心掛ける。ただし、詳細に入り込んで、長くならないように注意する。
③結果の羅列では論文にはなり得ない。あるいはまた、自身が研究・実践したことを無批判に「こんな仮説・方法でやってみたら、こんな成果（子供の作品）が出ました。」といったレベルでは不足。何がよく、何が課題だったかを自分なりに分析・検討する。特に教育実践の場合、仮設生成型の質的研究が多くなる。「よかった」といった素朴な結論で終わらずに、新たな課題や仮説を見出すような考察をしたい。
④実践や調査・研究の問題設定や条件、及びそれらの妥当性を予め述べる必要がある。

⑤問題設定や条件の説明に研究者･実践者の思想（考え方）が込められていることが必要。何のためにその研究や実践をしているのか、期待している研究成果が得られるとどんなよいことがあるのか、得られる研究成果は何に活用するのか、という視点が必要。「先行研究がこう言っているから」では不足…と言うかダメ。

4. 論文は面白いものであるべき

読者の心を引き込む論文を書こう！読者に感動（何らかのよい印象）や学びが与えられるように書くことが必要となる。

・この問題の意義は、大きいようだ。
・問題設定が現実のニーズや制約を基によく考えられている。学習指導要領や教育要領でこう述べているといったことだけではいささか十分とは言えない。
・この論文には、問題設定や解決法にオリジナリティがある。その人自身の実践や研究のありようが垣間見える。
・この論文の分析・整理のアイデアは斬新だ。
・著者はそこまで深く物事を考えて、この論文を書いたのか。
・結果の意味は、そういうことなのか。

逆に、読者によい印象を与えないのは、以下のような場合。

・問題設定が先行研究のものを鵜呑みにしている。
・大した結果でもないのに、素晴らしい結果と主張している。
・アイデアが既存のもの・一般的なもので、工夫が見られない。
・結果のみが述べられ、意義の説明がない。

5. 論文にも起承転結が必要

論文だからこそ一貫した起承転結・ストーリーが必要！

①起：研究の動機

この論文を含む著者の研究課題の動機を述べる。この論文の位置付けと特徴を述べる。

②承：問題設定

考える問題の意義を述べ、関連する先行研究との関係を明らかにする。この論文で、研究課題の中の何をどこまで明らかにするかを述べる。

③転：調査、実践、分析の結果

調査、実践、分析の方法を述べ、結果を示す。独自のアイデア、工夫などオリジナリティを明確に示す。

④結：論文のまとめ

結果の意義を述べ、研究課題の今後の展望を述べる。この論文の波及効果についても触れる。

上記を参考に、論文を書き始める前に、各部分で書くべきことを箇条書きにして、ストー

リーを考える。論文執筆中に変更する必要が生じることは多々ある。

6. その他

論文の採否には、査読者に「なるほど」と思わせる内容が必要となる。そのために以下の点に留意する。

・研究課題の設定：研究の意義の主張、分野における位置付け
・ストーリーの立て方：査読者が一度で分かる起承転結
・一度で分かってもらえないと、否定的評価になりがち
・妥当性の確認：他人に読んでもらう
・プレゼン資料を作ってみる（論旨の整理に役立つ効果が大きい）
・締切までに時間があるときは、１週間空けてから読む

7. おわりに

良い論文を書くには

①良い（論旨が容易に理解できた）論文をたくさん読む。良いと思った論文の構成や書き方をまねることから始める。
②同僚や友人に読んでもらう。論旨の不明確さや説明の飛躍・不十分さが明らかになる。
③卒業大学の先生や知り合った先生、あるいは先輩に添削をしてもらう。

参考

・【起承転結】とは？書き方から活用方法まで｜0 から学ぶ文章法則（2024 年 3 月 4 日）
https://fereple.com/writers-apc/story-composition/
・はじめての論文執筆（2024 年 3 月 15 日）
http://itolab.is.ocha.ac.jp/~itot/message/ItolabWriting2018.pdf
・日本小児保健協会：多職種のための投稿論文書き方セミナー（2024 年 3 月 25 日）
https://www.jschild.or.jp/research/archive/seminar/
・山崎克之「論文の書き方講座　論文を書こう」、電子情報通信学会　通信ソサイエティマガジン（2024 年 4 月 4 日）
https://www.jstage.jst.go.jp/article/bplus/7/3/7_215/_article/-char/ja/